



「あじくりげ」は、戦後の復興が進む1956年(昭和31)に名古屋タイムズ社から創刊された、食をテーマにあらゆる視点で書かれた文芸冊子です。創刊号には、江戸川乱歩や尾崎士郎など有名な作家の名が並び、表紙絵は画家の杉本健吉が飾りました。以降、文学界はもとより各界で活躍する人たちがエッセイを寄せ、東海地方の食文化を発信し続けてきましたが、惜しくも2016年5月号にて終刊となりました。



トークイベント 「あじくりげ」を語る

- ◆日時:平成29年6月4日(日)
13:30~15:00
- ◆会場:文化のみち二葉館 1階大広間
- ◆座談:馬場駿吉 安田文吉
司会 三田村博史

※入場無料(要入館料) 当日先着順自由席



馬場 駿吉 / 名古屋ポストン美術館館長(俳人(ねんげ句会同人))
昭和7年名古屋生まれ。中学時代に俳句入門。医学教育、研究、診療のかたわら句作。1960年代初頭より、詩人瀧口修造とその周辺の多くの芸術家たちの知遇を得て、美術、演劇、映像、舞踊、音楽、文学など、現代芸術の最前線を横断する評論、エッセイを新聞、雑誌などに執筆。句集・美術論集・医学専門書など著書多数。

安田 文吉 / 東海学園大学特任教授・南山大学名誉教授
昭和20年名古屋生まれ。東海中・高を経て40年名大文学部入学。歌舞伎・浄瑠璃研究を行う。52年4月南山大学文学部講師、助教授を経て平成元年4月教授。26年3月南山定年退職、4月1日東海学園大学特任教授。文学博士(論文)。

三田村 博史 / 中部ペンクラブ会長
昭和11年岐阜県根尾生まれ。第2回石森延男児童文学奨励賞、第4回海外紀行文学賞、第1回中部ペンクラブ文学賞、平成16年2月名古屋芸術賞を受賞。著書に『妻の亡命』『漂い果てつ』など。新刊に『東海の文学風土記』。

連載などの執筆背景を中心に、「あじくりげ」との関わりや思い出などについてお話いただきます。



主催:お問い合わせ

文化のみち二葉館

【名古屋市旧川上貞奴邸】

〒461-0014 名古屋市東区榎木町3丁目23番地

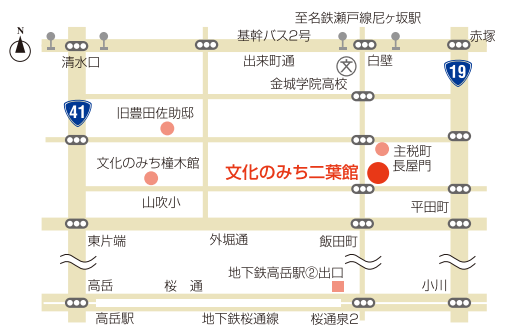
Tel & Fax 052-936-3836

<http://www.futabakan.jp/>

このチラシは古紙パルプを含んだ再生紙を使用しています。

交通のご案内

- なごや観光ルートバスメール「文化のみち二葉館」下車
 - 市バス「飯田町」下車、北に徒歩2分
 - 基幹バス2号「白壁」下車、南に徒歩5分
 - 地下鉄桜通線「高岳」下車、2番出口より北に徒歩10分
 - 名鉄瀬戸線「尼ヶ坂」下車、南に徒歩12分
- ※駐車台数に限りがありますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。



市バス・地下鉄でのお出かけが便利でお得です。

ドニエコきっぷ・一日乗車券を利用してご来場の方は、**文化のみち二葉館入館料割引! 一般 200円 ▶ 160円**

※詳細は地下鉄駅で配布している特典ガイドブック「なごや得ナビ」をご覧ください。

※「ドニエコきっぷ」「一日乗車券」は、ゆとりーとライン(高架区間)、名鉄バス、あおなみ線、リノモでは利用できません。



当日利用したドニエコきっぷ等の一日乗車券を提示するだけで、名古屋市内の施設・飲食店などで割引等の特典が受けられます!

